

2021年9月10日

「CDP」および「Climate Action 100+」への署名について ～脱炭素社会の実現に貢献～

明治安田生命保険相互会社(執行役社長 永島 英器)は、10年計画「MY Mutual Way 2030」に掲げる持続可能な社会づくりへの貢献に向けて、気候変動問題の解決を進める国際的なイニシアティブである「CDP」および「Climate Action 100+」に署名しましたので、お知らせします。

当社は、SDGsの目標から導き出される社会課題のうち、当社のステークホルダーへの影響度と事業との関連性の観点から、13項目を「優先課題(マテリアリティ)」として設定しており、その中でも「環境保全・気候変動への対応」を「さらなる取組みが必要な優先課題」と位置づけ、脱炭素社会の実現に貢献する取組み等を強化しています。

また、当社は本年7月にCO₂排出量の削減目標を改訂し、自社による排出の「Scope1・2、Scope3」、投融資先による排出の「Scope1・2」のいずれの区分にも、2050年度にネットゼロとする削減目標を設定しました(※)。

(※) 具体的内容は、2021年7月5日リリース「CO₂排出量をネットゼロとする目標の設定および脱炭素社会の実現に貢献する取組みについて」をご参照ください。

https://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2021/pdf/20210705_05.pdf

今回の国際的イニシアティブへの賛同・署名は、他の機関投資家との協働を通じて、世界的な気候変動に関する情報開示の促進や温室効果ガスの削減に貢献するものであるとともに、上記目標の達成に向けた当社の取組みの高度化や実効性向上に資するものと考えます。

今後も引き続き、気候変動問題をはじめとした社会課題の解決に貢献すべく、当社としての取組みの高度化を進めてまいります。

本件に対応するSDGs目標



以上

【CDP】(※1)

- ・ 2000 年に設立された、企業や投資家に対し、環境に関する重要な情報を管理するグローバルな情報開示システムを提供している国際的な NGO (旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト)
 - ・ 世界の主要な機関投資家と連携して、企業の気候変動への対応にかかる戦略 (リスク・機会) や温室効果ガス排出量に関する開示等を求める活動を展開
 - ・ 約 600 の投資家が参加し、参加投資家の運用資産総額は約 110 兆米ドル
- (※1) 記載数値はすべて 2021 年 9 月現在の CDP ジャパンの HP に基づく



【Climate Action 100+】(※2)

- ・ 2017 年に発足した、気候変動に関する投資家エンゲージメントイニシアティブであり、各地域の機関投資家が温室効果ガス (GHG) を大量に排出している世界の上場企業 160 社以上を対象に温室効果ガスの排出削減等を求めるエンゲージメント活動を実施
 - ・ 約 550 の投資家が参加し、参加投資家の運用資産総額は約 52 兆米ドル
 - ・ 加盟区分は「Participant (パーティシパント)」と「Supporter (サポーター)」に分けられ、当社はサポーターとして参加
- (※2) 記載数値はすべて 2020 年 11 月現在

